

なんたん 社協だより

2014.1

第20号

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり

ボランティアのみなさま、ありがとうございました。



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、当会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、社会・経済情勢が激動する中、地域の福祉を取り巻く環境も年々厳しさを増しており、少子高齢化による「人口減少」は地域社会に深刻な影響を及ぼしつつあります。

また、昨年9月には、南丹市におきましても台風18号の豪雨により市全域に及ぶ災害が発生しました。被害に遭われました皆

どういそつ



社会福祉法人
南丹市社会福祉協議会

会長 田中 博

様には心よりお見舞いを申し上げます。

今回の災害では、南丹市は勿論のこと京都府内や他府県からも多くのボランティアが支援に駆けつけていただいたことは、本当に有り難く、人と人のつながりや、助け合いと絆の大切さを痛感したところであります。これを契機に、当会といたしましても、地域福祉の原点「安心・安全なまちづくり」を皆様とともに推進してまいります。

年頭に当たり、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

この度の台風18号で被害に遭われた皆様に 心よりお見舞い申し上げます。

皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

南丹市社協は、この度の台風18号災害において、南丹市との協定に基づいて、9月17日～30日の14日間にわたり、災害ボランティアセンターを開設し、被災者への災害ボランティア活動を行いました。

南丹市での災害ボランティアセンター設置は初めての経験でしたが、迅速な立ち上げ・運営開始ができましたのは、様々なご支援・ご協力はもとより、次のような条件が整ったことによるもので、ありがたく思っています。

- その1 市役所との間に「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」(平成24年3月)が締結されていた。
- その2 南丹市内の多くの市民をはじめ、八木中学校・園部高校や南丹市と協定を結ぶ佛教大学など多くの学校からの支援・協力をいただいた。
- その3 京都府内は勿論、府外(特に兵庫県)からも多くのボランティアにかけつけてもらえた。
- その4 災害ボラセン運営スタッフとして、京都府社協をはじめ、京都府内各社協、京都府から、スキルの高い職員を派遣いただいた。

他にもたくさんありますが、やはり大切だと確信したのは、人と人のつながり「絆」であり、人が人を想う「やさしさ」でした。

被災をされました皆様には心からお見舞いを申し上げますと共に一日も早い平穏な日が訪れますよう願っております。

災害ボランティアセンターを支えていただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

南丹市災害ボランティアセンター長(南丹市社協 事務局長) 山内 明

南丹市災害ボランティアセンターの主な動き

9月

16日(月) ・市災害対策本部との連絡・調整開始

- ・災害ボランティアセンター(ボラセン)設置に向けた協議
- ・「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」発動
- ※災害ボラセンを9月17日 13:00に園部海洋センターに設置することを決定

17日(火) ・災害ボラセン開設・運営開始

- ・京都府社協より職員の派遣受入開始(～9/30)

18日(水) ・園部町横田区公民館に現地サテライトを設置

19日(木) ・京都府市町村社協連合会より社協職員の派遣受入開始(～9/30)

- ・京都府(振興局・保健所)より職員の派遣受入開始(～9/26)
- ・宮城県塩釜市社協より職員の派遣受入開始(～9/23)

21日(土) ・京都府災害ボラセンよりボランティアバス受入(～9/23)

24日(火) ・園部町横田区現地サテライトを閉鎖

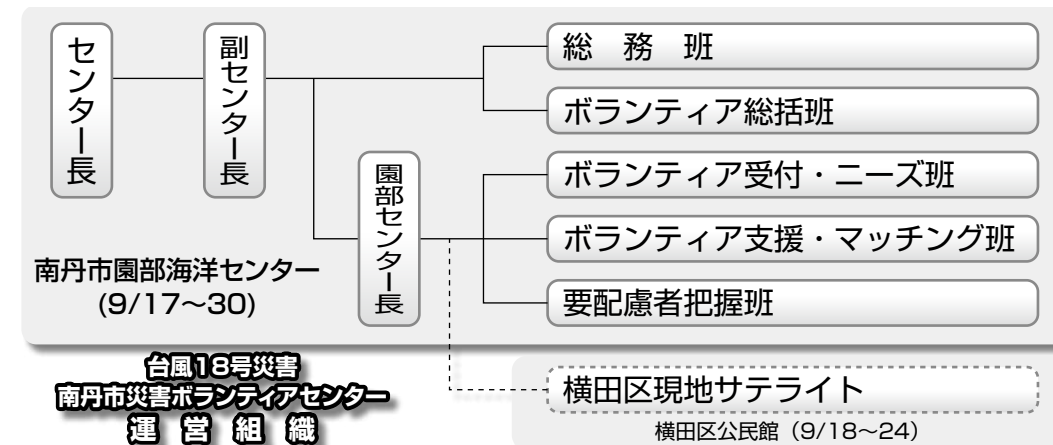
30日(月) ・協定発動解除

- ・災害ボラセン閉所



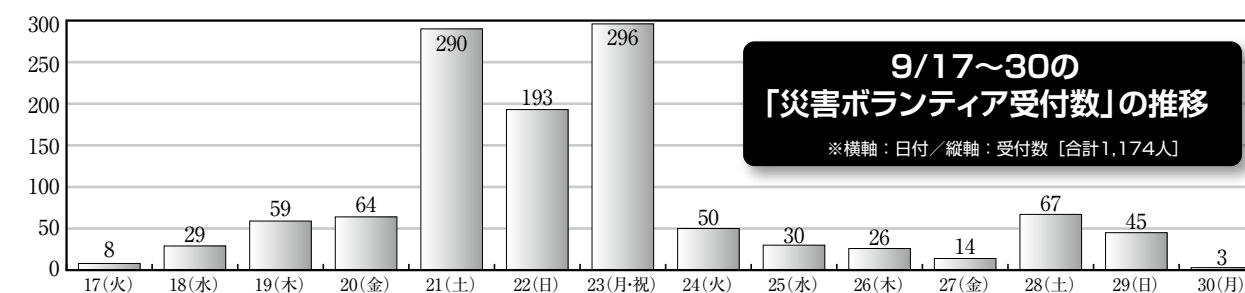
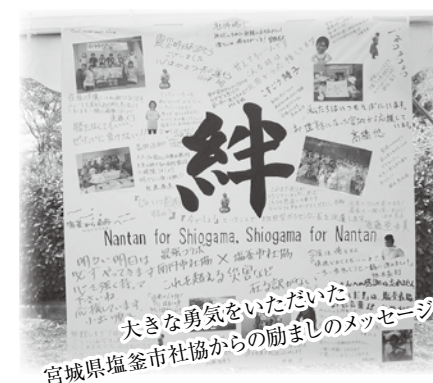
写 真

- ①災害ボラセン開設協議
- ②横田区現地サテライト
- ③ボランティアバス受入れ



災害ボランティア活動数

	延べ活動数(人)	派遣要請受付数(件)	活動数(件)
園 部 町	1, 2 8 0	1 1 4	1 8 6
八 木 町	1 3	1	1
日 吉 町	6 2	3 1	1 3
美 山 町	8 1	6	5
そ の 他	3	1	1
合 計	1, 4 3 9	1 5 3	2 0 6



困った時はお互いさま

市内外から、災害ボランティア活動のために、心温まる募金やご寄付をいただきました。

総額：714,602円

(13件〈個人：2件、団体：11件〉)(11月末日現)



災害ボランティア活動に必要な資機材(スコップや一輪車など)は、宇治市及び京都府災害ボラセンから提供(貸出)いただきました。また、団体・企業等からも多数の物資を提供いただきました。

ボランティアの皆様、ご支援ありがとうございました。



園部町横田区長

石川 善博さん

今回の台風は予想外の被害でした。巡回していたら、道路が冠水していて車が水没し、動かなくなってしまいました。

公民館には20人ほどが自主避難してきました。もし水が入ってきたら、子どもだけでも高い所に上げられるようにと机を並べました。別の施設も避難場所として想定していましたが、実際には道路が冠水して近づけませんでした。

ボランティアの受け入れは今回初めての経験でした。泥出しなどの作業を、汚れることも気にせず本当に一生懸命がんばってくれて、**区民から感謝の声でいっぱいです。**

今回の災害は区長だけではとても対応できませんでしたが、副区長、防災委員長など、役員と一緒に動いてくれたので対応することができました。



運営支援ボランティア

内藤 斉さん

3月に運営支援ボランティア養成講座を受講しておりましたので、地元住民として何か手伝うことがあればと思いサテライトとなった横田公民館に行きました。9月18日から20日までと24日の4日間活動させていただきました。3日間は地元のボランティアや市外からのボランティアの方と一緒に作業もさせていただきました。

ボランティアの皆さんが**自分のことのように黙々と作業されている姿**やお母さんと一緒に来てくれた**子供さんが一生懸命土のうに泥を入れる作業**をしてくれた**姿に感動**しました。

被災世帯の中には、遠慮されボランティア要請をされていないところもありましたが、要望に応じて素早くボランティアの配置がされていたことはよかったと思います。



園部町横田区防災委員長

松本 健さん

台風の当日、この辺りではそれほどきつく降っていませんでしたが、上流ではものすごく降っていました。上流の降り方で状況判断をする必要があったと思います。

浸水被害のあった家を軒軒声かけをして回りました。自力で頑張っている人にも、2週間も続けたらくたくたになるから、ボランティアの助けを求めるように、と声をかけました。

区長から区民へボランティアの協力を呼びかけたこともあり、地元ボランティアも数多く活動してくれました。

今回は災害ボランティアセンターと区との連携で、ボランティアの受け入れがスムーズにできたと思います。



運営支援ボランティア

中西 芳治さん

地元が被災したことで運営支援ボランティア養成講座を受講していたこともあり、何か役に立つことがあればとの思いで、災害ボランティアセンターに行かせていただきました。9月17日から23日まで、主にボランティアの派遣先への道案内をさせていただきました。**全国からグループや個人でボランティアに来ていただいたこと、また、何より皆さんが気持ち良く作業をして下さったことがありがたかったです。**

初めての災害ボランティアセンターの立ち上げということでしたが、役割分担や指示など思っていたよりきちっとできていたと思いました。また、他の社協からの応援や資機材の提供など社協同士のつながりには感心しました。今回、こんな自分でもお役に立てたことがうれしいことでした。

京都府立園部高校有志の皆さん

生徒の中にも家が被災した人がいて、「**他人事ではない災害だ**」と感じました。地域の皆さんに何かできることはないかと思い、ボランティア活動への参加を決めました。

週末3連休に部活動をしている人を中心に、ボランティアが集まりました。活動をしてみて、地域には高齢者の方も多くおられ、泥を出しや片付けが大変だと思いました。そして、お家の中には今まで大切に使っ



ていたものや、思い出がつまったものがたくさんあって、**捨ててしまわないといけな気持ち**を考えると心が痛みました。

平日は授業があり、ボランティア活動には参加できませんでした。現地での作業だけが支援ではない、募金を集めようという意見が上がり、募金活動を行いました。

様々な形でボランティア活動を行うことができました。これからもこの活動を続けていきたいと思っています。



南丹市立八木中学校サッカー部の皆さん

八木町内は大きな被害がなかったのですが、園部町横田のお家に行った時は**被害の大きさに驚きました**。庭に土砂や木が流れていたり、家の中も泥がたまったりしている家が多かったです。地域の中にはお年寄りの方が多いと聞いたので、片付けが大変だろうなあと思いました。

部員の一人が、**まずは家の中を住める状態にしよう**とみんなに声かけをしてくれました。暑い中での泥かきはしんどかったけど、お家の方が「ありがとう、ありがとう」って言って下さり、やってよかったなあと思いました。家族からも、「人の役に立つことができてよかったね」と言ってもらえました。

生徒たちは、「一生懸命頑張ったことに対して、地域の方から感謝されたことが嬉しかった」と活動後に話していました。ボランティア活動に参加したことで、色々感じたことや得るものがあったと思います。

(顧問 加藤先生)



美山町大野振興会長 山口 恒一さん

大野地域では、2つの集落にボランティアを派遣していただきました。

私の住む檜原区の永照寺は、裏山から土砂が流れ込み、床下や周りの小川が土砂でいっぱいになりました。本来ならば区内外の檀家で復旧作業をするところですが、檀家は高齢の方も多く、作業に出られる者は私を含めて数名でした。檜原区長の呼びかけで区民の皆さんが作業してくださり、そして南丹市災害ボランティアセンターからも3日間にわたって多くのボランティアさんに支援していただきました。

ボランティアさんの力を借りること自体初めての経験で、一体どのような受け入れ態勢を取ればよいか心配していました。しかし、来て下さったボランティアさんが一生懸命作業する姿を見て、「**みなさんのところに何かあったら、次はわたしが行かんとかかんあ**」と話す方もいました。



平成25年台風18号 被災状況

雨量状況：園部311.5mm（時間最大雨量34.0mm）

水位状況：園部川氾濫危険水位（2.6m）を超える、2.78m。

住家状況：全壊9戸、大半壊2戸、半壊38戸、床上浸水102戸、床下浸水309戸

（11月1日現在）



消防隊による救助活動（園部町横田）



本梅川増水による堤防凋落（園部町穴人）



瓦礫と共に流された自動車（園部町横田）



土砂と共に流された農機具（園部町穴人）



泥が入り込んだ民家



崩れたビニールハウス

南丹市災害ボランティアセンター 活動の様子

設置期間：平成25年9月17日～9月30日

設置場所：南丹市園部海洋センター（平成25年9月18日～9月24日横田区公民館に現地サテライトを設置）



災害時のボランティア活動は被災地支援の大きな力となっており、今では不可欠な存在となっています。

そのような状況をふまえて、南丹市社協では、「被災された方々を支援したい」という思いをとりまとめ、被災者支援のために、効率的・効果的にボランティア活動を実施していくことを目的に南丹市災害ボランティアセンターを設置しました。



ボランティア受付



災害ボランティアへ出発！



床下の泥出し



泥運び



土砂崩れの復旧



南丹市災害ボランティアセンター活動の様子



センタースタッフミーティング

「地域の未来を デザインする。」

「なんたんふれあいプラン」で、地域を元気にいきいきと!!

ただ今「第2期プラン(2014-2017)」
を作成しています。

●地域の防災力を高めよう

今回の台風18号は南丹市に大きな被害をもたらしました。風水害、地震、大規模災害は今後
もいつ起こるかわかりません。災害が起こった時に、少しでも被害を減らすため、ふだんから地
域住民みんなで防災・減災について学び、訓練を重ねることで、地域の防災力を高めていきま
しょう。第2期プラン策定の中でも防災の取り組みを重要な柱として議論しています。

以下では、防災マップを作成して地域の危険箇所や避難経路を確認したり、災害時に支援が必
要な人（災害時要配慮者）を地域で支える取り組みを進めている地域を紹介します。

防災に取り組む自治会

～黒田区(園部町)の取り組み～



黒田区では、平成16年から区役員と消
防団により、区民の防災意識を高めるため
に、自主防災組織の立ち上げを検討してき
ました。規約を検討し、昨年の総会を経て
6月に設立しました。

9月の台風18号では、区内でも浸水被害
があり、あらためて防災への取り組みの必
要性を感じました。

台風被害も落ち着いた11月、各団体・
区民約100名が参加し、防災マップづくりに取り組みました。水害・土石流警戒区域を確認し避難経路
を区民どうしで確認し合うことができました。

これまで、組頭の誘導で避難していましたが、マップがあれば誘導者が変わっても安全に避難するこ
とができます。今後は、家庭サイズのマップを各戸に配布して、さらに防災意識を高める取り組みを進
めていく予定です。

～南地区自治会(八木町)の取り組み～

毎年、9月下旬に南地区自治会、区長会主催に
よる防災訓練を実施しています。午前に避難訓
練、午後におひとりぐらし高齢者宅への防火訪問
を行っています。今年は南丹市、地域包括支援セ
ンター主催の「徘徊模擬訓練」に参加しました。

午前の部は、消防団、民生児童委員、ふれあい
委員等の協力のもと、今年は地域住民655人が参
加しました。

8:30 避難訓練
9:00 消火訓練
(消火器・消火栓取扱い説明)
災害ボランティアセンター設置訓練
炊き出し訓練
11:00 午前の部 終了
13:30 徘徊模擬訓練
16:00 徘徊模擬訓練 終了

南地区自治会が防災訓練に取り組み始めて今年で7回目となりました。「自らの地
域は自ら守る」を合言葉に、地域をあげて防災に取り組んでいます。

南地区でも、高齢者が増えていきます。一人で避難することが難しい方もいます
ので、そのような方が安全に避難するための取り組みを進めたいと思います。

南地区自治会長 益田 莞爾 さん



徘徊模擬訓練を実施しました

～つながろう南丹徘徊SOSネットワーク～

今回の訓練では、地域住民や消防団による声かけや捜索
の訓練を行うと同時に、南地区内の商店に協力していただ
き、捜索本部との情報伝達方法について検証を行いました。
事前に登録した内容を、協力機関（商店等）にFAX送信
し、情報提供を呼びかけました。



本町・栄町コース
南花子さんが行方不明に



商店による情報提供



本郷地区コース
小林太郎さんが行方不明に



捜索本部

つながろう南丹徘徊 SOSネットワーク

認知症の方が行方不明になった
時、早期発見・保護ができるよう
に、幅広い関係者で連携・協力体制
を作る取り組みです。

参加者の感想

実際の時は認
知症で徘徊して
いる人なのかわ
からないと思っ
た。



後で振り返ってみて、徘徊の人
がどんな服装だったか思い出せな
かった。見ている
ようで見てない
と思った。
(声かけ役)



ご近所パワーで助け合いおこし ～見守り研修会を開催しました～



11月10日（日）、南丹市国際交流会館で見守り研修会を開催しました。講師として、住民流福祉総合研究所の木原孝久所長をお招きし、「ご近所パワーで助け合いおこし」をテーマに講演していただきました。

木原氏考案の「支え合いマップ」は、支援を必要としている人と支援を担う人の「つながり」に着目し、「つながり」が少なく孤立している人、その人が誰を見込んで頼みごとをしているのか見つけ出すものでした。実際に作成した「支え合いマップ」を使い、今の地域は、介護保険に期待しすぎていて、介護保険サービスを受けている人の「つながり」が少なくなっている、豊かに生きていくためには住民同士の「助け合い」が大切、「助け合い」をしていくには、助けられる側が助けてほしいことを周りに伝えられる「助けられ上手」にならなければならない、と話されました。

参加者からは、「サロンなどで皆と話し合ってみたい。」「助けてと言える環境作りが大切だ。」「おせっかいな人も必要なのかな。」などの意見や感想を多く聞くことができました。

ボランティア交流会が開催されました



11月16日（土）南丹市国際交流会館で第7回南丹市ボランティア交流会が開催されました。今年度は、落語家の桂福点さんをお招きし、視覚障がい者としての自らの体験談、音楽や落語を通して出会った多くの人との「つながり」の話などをしていただきました。会場は笑いと感動で包まれました。

～参加者アンケートより～

障がいがありながら、色々な人と出会い、元気に落語をされているのに感銘を受けました。
初めての参加でしたが、みなさんの熱心さにも心打たれました。
人とのつながりには、歌や笑いも大切だとわかりました



会場にはパネル展示や作品の展示もあり、各団体の活動のようすが紹介されました。

善意のご寄付ありがとうございました

《平成25年11月末受付分まで》

末武 和代 様	100,000円	亡夫の供養に	大坪 洋子 様	10,000円	南丹市災害ボランティアセンターへ
古谷 善夫 様	100,000円	亡母の供養に	(福)塩釜市社会福祉協議会 様	30,000円	南丹市災害ボランティアセンターへ
倉内喜久雄 様	100,000円	亡母の供養に	園部町民生児童委員協議会 様	50,000円	南丹市災害ボランティアセンターへ
高野 惇 様	100,000円	亡母の供養に	(福)京都府社会福祉協議会 様	100,000円	台風18号による災害見舞金として
木戸 和子 様	100,000円	亡夫の供養に	南丹市民生児童委員協議会 様	100,000円	台風18号による災害見舞金として
小南 茂男 様	50,000円	亡母の供養に	新日本婦人の会南丹支部 様	33,500円	台風18号救援募金を災害復旧のために
田中 正市 様	50,000円	福祉のために	小桜町区女性会 様	20,000円	台風18号による被災者のために
斉藤智恵子 様	50,000円	亡母の供養に	園部町グラウンドゴルフ協会 様	10,000円	水害見舞
矢野 勇逸 様	10,000円	福祉のために	氷室の郷「収穫まつり」 様	21,905円	台風18号義援金
矢野 勇逸 様	10,000円	水害見舞	斉藤智恵子 様	絵画	亡母の供養に
小林 恵次 様	100,000円	福祉のために	長谷川浩美 様	ポータブルトイレ、シャワーチェア	
京都 山坊主 様	6,700円	福祉のために	カラオケサークル園城堰会 様	DVDプレイヤー	
カラオケ同好会「道」 様	41,868円	福祉のために	谷内 博士 様	餅米30kg	
匿名 20件	630,000円				
人見 承門 様			3,000円	チャリティー売上を福祉のために	
聖家族幼稚園保護者会 様			20,000円	バザー収益金の一部を福祉のために	
カラオケサークル園城堰会 様			20,000円	チャリティー歌謡フェスティバルの募金を福祉のために	
第15回南丹市チャリティーゴルフ大会実行委員会 様			45,000円	あじさい園のために	
京都 山坊主 様			7,000円	胡麻夏祭り売上金の一部を福祉のために	
もったいない屋 様			49,050円	7周年記念パーティ売上金を災害義援金として	
園部町城南町花火大会実行委員会・南丹市消防団園部支部第1分団 様			100,147円	台風18号募金	

ワークセンターびび 日吉分所からのお知らせ

へその市



毎月第4金曜日／10:00～14:00 場所／ワークセンターびび日吉分所

ワークセンターびび日吉分所では、昨年の7月からへその市を開催しています。

なぜへその市？それは、南丹市が京都府の中央に位置する（へそ）だからです。びび日吉分所はさらに、南丹市のへそになれたらというみんなの思いが詰まっています。

内容は、自慢の挽きたてコーヒーが飲めるカフェがあります。また、究極（？）のカステラ、自主製品の野菜、びび美山の米粉パンやさをり織りの小物等盛りだくさん販売しています。中でも手作りカステラは美山のひらがら卵を使用していておいしいと評判です。皆さんもびび日吉分所のへその市にどうぞお越しください。

へその市開催日／平成26年1月24日(金)、2月21日(金)、3月28日(金)



メニューリスト



さをり織りの小物



カステラ



自主製品の野菜

〇〇〇 ～ゲートキーパー養成講座を開催しました～ 〇〇〇

10月28日（月）、南丹市医療保健福祉ネットワーク会議合同研修会で、京都府精神保健福祉総合センターの熊取谷晶氏をお招きし、ゲートキーパー養成講座を開催しました。

民生児童委員、ふれあい委員、介護保険事業所や病院職員の方等、78名が受講されました。



★『聴く』ためのポイント★

- ①話しやすい雰囲気づくり（安心して話せる個室など）。
- ②先入観を持たず、ありのままを聴く。
- ③質問をできるかぎり控える。
- ④勝手な解釈や評価、批判はやめる。

「ゲートキーパー」とは??

ゲートキーパーとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、「命の門番」とも位置付けられる人のことです。

ひとり暮らし高齢者のつどい（園部町）



10月29日(火)南丹市国際交流会館で開催しました。今年は京都府警南丹署から詐欺の手口など注意することや交通安全のお話を聞きました。午後はカラオケやビンゴで盛り上がりました。

みなさんの笑顔がいっぱい!!
「楽しいひとときでした」と
参加者みんながニコリ!



発行

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

本 所 〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地 ☎ 0771-72-3220 FAX 0771-72-3222
(代表) メールアドレス na_shakyo@cans.zaq.ne.jp

園部支所	〒622-0014	南丹市園部町上本町南2番地22	☎ 0771-62-4125	FAX 0771-63-5606
八木支所	〒629-0134	南丹市八木町西田山崎 17 番地	☎ 0771-42-5480	FAX 0771-42-4412
日吉支所	〒629-0301	南丹市日吉町保野田垣ノ内6番地4	☎ 0771-72-0947	FAX 0771-72-0732
美山支所	〒601-0722	南丹市美山町安掛下8番地	☎ 0771-75-0020	FAX 0771-75-0829

ホームページ 南丹市社協

検索